

「まじめ」と「熱心」

加藤恵梨（大手前大学）
erikato@otemae.ac.jp

【要約】

本研究の目的は、『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』を用い、日本語学習者が「まじめ」と「熱心」という語をどのように用いているのか、またどのような誤用があるのかを調査し、誤用の要因を明らかにすることである。分析の結果、他者の行為の様子を表すのに両語が用いられるとき、誤用が見られた。まず、他者の行為の様子を「まじめ」と表現するのは、まじめに行わない人との違いを強調する場合である。そのため、そのような違いを強調する必要がないときに、ある人の行為を「まじめ」と言うと不自然な表現になる。一方、他者の行為の様子を「熱心」と表現することができるのは、ある人がある理由から、情熱をもって積極的にある行為をする場合である。そのため、ある行為をする理由を文脈から理解できない場合、他者の行為の様子について「熱心」と言うと不自然な表現になることを述べた。

1. はじめに

「まじめ」は日本語学習者が初級レベルで学ぶ形容詞である。『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 本冊』を見ると、第28課に「鈴木さんはまじめだし、中国語もじょうずだし、それに経験もあります。」という文が載っている。この文のように「まじめ」は多くの場合、誉め言葉として使われる。また、同じ第28課に「ワット先生は熱心だし、おもしろいし、それに経験もあります。」という文も載っている。この文の「熱心」を「まじめ」に置き換えても、大きく文の意味は変わらない。このことから、「まじめ」と「熱心」は意味が類似していることがわかる。しかし、両語はいつでも同じように使えるわけではない。本研究は『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』を用い、日本語学習者が両語をどのように用いているのか、またどのような誤用があるのかを調査し、誤用の要因を明らかにする。

2. 先行研究における「まじめ」と「熱心」の記述

2.1 先行研究における「まじめ」の記述

山中（1997）は、「まじめ」は文脈によって、「いいかげんな気持ちではない」（「本気」）という意味と、「規則や良識や常道などにならなっている」（「規範的」）という意味で用いられると述べている（pp. 110-109）。また、これらの意味は〈良いと考えられている価値基準を知った上で、それに沿ってふるまおうとするさま〉（通常、肯定的な評価を伴う）という意義素から文脈の助けを借りて導き出されたものであると捉えている（p. 102）¹。さらに山中・安田（2008）は原型意味論の枠組みに基づき、山中（1997）で提案した〈良いと考えられている価値基準を知った上で、それに沿ってふるまおうとするさま〉という基本義の「良いと考えられている価値基準」に「自己基準」と「社会基準」があるとし、

¹ 「意義素」について、山中（1997）は「国広（1982）で展開されている意義素説では、語の意味は単なる用法の総体ではなく、語には固有の意味があり、それが用法に反映されていると考える。この、語に固有の意味のことを『意義素』と呼ぶ」と説明している（p. 105）。

これら二種類の価値基準をともに満たすような態度が「まじめ」の原型であると述べている (pp. 48-49)²。本研究も山中 (1997) に従い、「まじめ」の基本義を〈良いと考えられている価値基準を知った上で、それに沿ってふるまおうとするさま〉とする。

2. 2 先行研究における「熱心」の記述

続いて、「熱心」の意味について『大辞林 第四版』と『講談社類語辞典』の記述を確認する。

『大辞林 第四版』

物事に情熱をこめて打ち込むこと。心をこめて一生懸命すること。また、そのさま。

「一に勉強する」「一な練習態度」 (p. 2115)

『講談社類語辞典』

あることに情熱を傾けたり集中したりする様子。

「妻は子供の教育に～だ」「講師の話を～に聞く」 (p. 837)

『大辞林 第四版』と『講談社類語辞典』の意味記述に大きな違いはない。これらの記述から、本研究では「熱心」の基本義を〈情熱をもって積極的にある行為をするさま〉とする。

3. コーパスにおける「まじめ」と「熱心」の使用の割合

本節では「まとめて検索『KOTONOHA』(試験公開中)」(以下『KOTONOHA』とする)を用い、「まじめ」と「熱心」が書き言葉と話し言葉において、どれくらい使われているのかを見る。『KOTONOHA』を用いることで、国立国語研究所のコーパス開発センターが提供している『中納言』の中の8つのコーパスを一度にまとめて検索することができる。8つのコーパスとは、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下『BCCWJ』とする)、『国語研日本語ウェブコーパス』(以下『NWJC』とする)、『日本語話し言葉コーパス』(以下『CSJ』とする)、『日本語日常会話コーパスモニター公開版』(以下『CEJC』とする)、『昭和話し言葉コーパスモニター公開版』(以下『SSC』とする)、『名大会話コーパス』(以下『NUCC』とする)、『現日研・職場談話コーパス』(以下『CWPC』とする)、『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(以下『I-JAS』とする)である。

書き言葉と話し言葉別の「まじめ」と「熱心」の調整頻度(100万語あたりの頻度)の比を見ると、次の図1と図2のようであった³。図1と図2から、「まじめ」と「熱心」が最も多く用いられているのは、学習者の話し言葉であることがわかる⁴。また、書き言葉においては、「熱心」は「まじめ」よりも多く使われている。

² 「原型意味論」について、山中・安田(2008)は、「原型意味論では意味範疇というものがしばしば曖昧な境界を持つことを認め、ある事物がその語の指す範疇に属するか否かは程度の問題であると、その範疇を代表するもっとも中心的な成員を原型(prototype)と呼ぶ。」と説明している(p. 33)。

³ 検索は、「まじめ」については短単位の語彙素「真面目(形状詞)」で、「熱心」については短単位の語彙素「熱心」で行った。

⁴ 「まじめ」と「熱心」が学習者の話し言葉で最も多く用いられているのは、『I-JAS』の対話で幼少期のことや恩師の話を書くという項目があり、その際に自分のことや恩師のことを「まじめ」あるいは「熱心」であると話しているからであると考えられる。

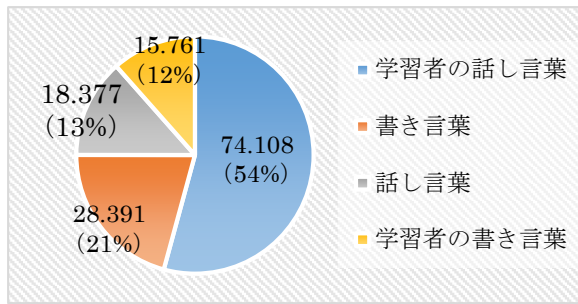


図1 「まじめ」の調整頻度の比

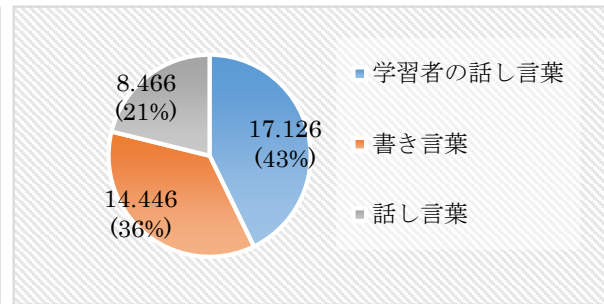


図2 「熱心」の調整頻度の比

図1と図2の詳細を示したものが次の表1である。

表1 『KOTONOHA』による「まじめ」と「熱心」の調査結果

カテゴリ	コーパス	対象とするデータ	検索対象語数	「まじめ」の 検索結果の件数	「熱心」の 検索結果の件数
書き言葉	BCCWJ	全て	104,911,460	2,719	2,084
	NWJC	一部	86,277,772	2,709	678
話し言葉	CSJ	全て	7,576,046	105	64
	CEJC	全て	610,959	11	2
	SSC	全て	180,280	0	2
	NUCC	全て	1,131,971	60	13
	CWPC	全て	186,906	2	1
学習者の 書き言葉	I-JAS	タスク「SW1、SW2」 (日本語母語話者は除く)	190,340	3	0
学習者の 話し言葉	I-JAS	タスク「ST1、ST2、I、RP1、RP2、D」 (日本語母語話者は除く)	3,211,521	238	55

表1から、8つのコーパス内で「まじめ」と「熱心」はあまり使用されていないことがわかる。また両語を比べると、書き言葉、話し言葉ともに、「熱心」のほうが「まじめ」よりも使用が少ない。

以上の『KOTONOHA』の調査から、学習者の話し言葉で「まじめ」と「熱心」が比較的多く用いられているが、コーパス全体を見ると両語ともにあまり用いられていないことがわかった。次節では『I-JAS』を用い、学習者の話し言葉で両語がどのように使われているのかを詳細に見ていく。

4. 『I-JAS』(学習者の話し言葉)における「まじめ」と「熱心」

4.1 学習者のレベルについて

まず、『I-JAS』(学習者の話し言葉)で「まじめ」と「熱心」を使っている学習者のレベルを確認する。次の表2は、J-CATに基づき、両語の使用者の日本語レベルと、使用者数および回数を示したものである。

表2 『I-JAS』(学習者の話し言葉)における「まじめ」と「熱心」の使用者の日本語レベル

J-CAT (合計)	日本語のレベル	「まじめ」の使用者数(回数)	「熱心」の使用者数(回数)
0-	初級前半	2人(3回)	0
100-	初級	8人(19回)	3人(5回)
150-	初級後半	41人(77回)	9人(14回)
200-	中級前半	47人(82回)	16人(21回)
250-	中級	17人(26回)	6人(8回)
275-	中級後半	11人(21回)	6人(6回)
300-	上級前半	5人(7回)	1人(1回)
325-	上級	1人(3回)	0
350-	超級(母語相当)	0	0
合計		132人(238回)	41人(55回)

赤線で囲ったように、両語ともに初級後半から中級前半レベルの学習者が多く使っており、上級レベルにいくほど使用者が少なくなっている。また、使用者を母語別に見たものが次の表3である。

表3 『I-JAS』(学習者の話し言葉)における「まじめ」と「熱心」の使用者の母語

「まじめ」			「熱心」		
	母語	使用回数		母語	使用回数
1	中国語	48	1	ベトナム語	18
2	韓国語	39	2	中国語	12
3	ベトナム語	28	3	韓国語	9
3	中国語(台湾)	28	4	中国語(台湾)	7
5	英語	18	5	インドネシア語	3
6	ハンガリー語	15	6	ドイツ語	2
7	ロシア語	10	7	タイ語	1
7	タイ語	10	7	スペイン語	1
9	ドイツ語	9	7	ロシア語	1
9	インドネシア語	9	7	ポルトガル語	1
11	フランス語	8			
12	トルコ語	7			
13	スペイン語	4			
14	タガログ語	3			
15	ポルトガル語	2			
合計		238	合計		55

両語ともに中国語母語話者の使用が多いが、漢字圏の学習者に使用が偏っているということはなく、使用者の母語はさまざまである。

4. 2 『I-JAS』(学習者の話し言葉) で使われている「まじめ」について

続いて、『I-JAS』(学習者の話し言葉) において、「まじめ」がどのような表現で使われているのかに注目すると、次の表4の表現が多く使われていた。

表4 『I-JAS』(学習者の話し言葉) で使用されている「まじめ」の表現

	使用されている表現	データの個数
1	まじめなN	71
2	まじめにV	43
3	まじめで～	35

以下では、上位2つの「まじめなN」「まじめにV」という表現の例を取りあげる。

まず、最も多い「まじめなN」という表現は、次の(1)のように使われている。

- (1) (前略) えーと、仕事の一、時、日本人、ん、んー真面目、な人〈ん〉いっぱい、います、え、えー、みんないっしょけんめい(一生懸命)、いっしょけんめい(一生懸命)しました
(サンプル ID JJE12-I)

(1)は初級後半レベルのベトナム語母語話者の発話である。一緒に働く日本人について、「まじめな人」がいっぱいいると言っており、そのように考える理由は、仕事を一生懸命するからであると説明している。「まじめなN」のNには、(1)のような「人」のほか、「子(供)」「先生」「学生」などが使われている。(1)の「まじめな人」は、良いと考えられている価値基準を知った上で、それに沿ってふるまおうとする人という意味で使われており、不自然な点は見られない。

次に、二番目に多い「まじめにV」という表現の例を見る。

- (2) だからー、そのー、バンドが好きでー、日本が好きって、日本語が好きで、でー、そこからー、私は真面目に、あのー勉強しようと、思いましたー、今も、頑張っています
(サンプル ID CCS45-I)

(2)は中級後半レベルの中国語母語話者の発話である。日本語を勉強している理由を聞かれ、(2)のように説明している。「まじめにV」のVには、(2)のような「勉強する」のほか「働く」が多く使われている。(2)の「まじめに勉強する」も、ある人が良いと考えられている価値基準を知った上で、それに沿って勉強するという意味を表しており、不自然な点はない。

しかし、「まじめにV」が他者の行為の様子を表すのに使われている例で、不自然な表現が見られる。

- (3) えっとーサンドイッチをつくた(作った)後、バスケットに入って、それから、ピクニック(ピクニック)の目的地を選んでいきます

んー真面目にマップ（マップ）で、探しています（サンプル ID CCM08-ST1）

(4) あー、この先生は、優しいです、〈んー〉そして、えーいつも私の、あー私の宿題を、真面目に、直して、くれました 〈んー〉、(後略)（サンプル ID CCH30-I）

まず(3)は初級後半レベルの中国語母語話者の発話である。ある人が地図を見て目的地を探している様子を「まじめにマップで探している」と表現しているが、この表現は不自然である。その理由は、ある人が地図で目的地を探している様子を、ある価値基準に沿ってふるまっているかという観点から捉えることが一般的ではないからである。よって、(3)は「まじめに」ではなく「熱心に」と言い換え、情熱をもって積極的に目的地を探していると表現したほうが適切である。

続いて(4)は初級後半レベルの中国語母語話者の発話である。先生が宿題の間違いを直してくれたことを「まじめに直してくれた」と言っているが、この表現は不自然である。しかし、先生が良いと考えられている価値基準（教師は毎回適切に学生の宿題の間違いを直すべきであるなど）を知った上で、それに沿って宿題を直してくれたと考えることはできないのだろうか。この点について5節で考察する。

4. 3 『I-JAS』（学習者の話し言葉）で使われている「熱心」について

次に、『I-JAS』（学習者の話し言葉）で「熱心」がどのように使われているかを見る。それらの上位3つは表5のような表現であった。

表5 『I-JAS』（学習者の話し言葉）で使用されている「熱心」の表現

	使用されている表現	データの個数
1	熱心なN	14
2	熱心にV	13
3	熱心で～	9

「熱心」も「まじめ」と同様の形で多く使われている。以下では、上位2つの「熱心なN」と「熱心にV」という表現の例を取りあげる。

まず一番多い「熱心なN」という表現は、次の(5)のように使われている。

(5) K：高校の先生は、〈うん〉とっても、うん、熱心なひ、先生です

C：あ、そう、どんなふうにか？

K：んー、こうこー（高校）、ここー（高校）、の時、私達はみんな、毎日、あの、試験にし、て、います（サンプル ID CCT49-I）

(5)はKが初級後半レベルの中国語（台湾）母語話者、Cが調査者（日本語母語話者）である。Kは高校時代の先生を「熱心な先生」と言っており、そのように思うのは、先生が毎日試験をしたからであると説明している。「熱心なN」のNには、(5)のような「先生」の他に、「人」が多く使われている。(5)は情熱をもって積極的に試験をする先生という意味で使われており、不自然な点は見られない。

次に、二番目に多い「熱心にV」という表現の例を見る。

- (6) (前略) あの一番あの熱心に取り組んだのはやっぱり、あのしょ、食文化に関すること
 ですね〈は〉、お正月の時は〈うん〉ちょっとお正月っぽいものやって〈なるほど〉、
 (後略) (サンプル ID JJN09-I)

(6)は中級前半レベルのポルトガル語母語話者の発話である。日本文化の中で食文化に関することに「一番熱心に取り組んだ」と言っている。「熱心にV」のVには、(6)のような「取り組む」のほかに「勉強する」が多く使われている。(6)の「熱心」は、情熱をもって積極的にある行為をするさまという意味で使われており、適切な表現である。しかし、「熱心にV」が他者の行為の様子を表すのに使われている例の中に、不自然な表現が見られる。

- (7) あー、妻、あー妻である、あーマリが、い、熱心に、サンドイッチ作ったんですけども、
 (後略) (サンプル ID KKR54-ST1)

(7)は中級後半レベルの韓国語母語話者の発話である。マリという女性がサンドイッチを作る様子について「熱心に作った」と言っているが、これは不自然な表現である。しかし、情熱をもって積極的にサンドイッチを作ったと言うと、不自然な表現になるのはなぜであろうか。この点についても次節で考察する。

5. 『BCCWJ』における「まじめ」と「熱心」

4節で行った『I-JAS』(学習者の話し言葉)の調査から、「まじめ」と「熱心」は他者の行為の様子を表現するときに用いる場合、注意が必要であることがわかった。本節では、3節で挙げた8つのコーパスの中で、最も「まじめ」と「熱心」の使用が多かった『BCCWJ』をもとに、4節で挙げた問題点について考察する。

5. 1 『BCCWJ』における「まじめ」について

まず、『BCCWJ』において「まじめ」がどのような表現で用いられているのかを見る。使用が多かったのは、次の表6の表現である。

表6 『BCCWJ』で使用されている「まじめ」の表現

	使用されている表現	データの個数
1	まじめにV	1,107
2	まじめなN	990
3	まじめで～	233

以下では、「まじめにV」「まじめなN」という上位2つの表現の例を取りあげる。

最も多く使用されているのは「まじめにV」という表現であり、次の(8)のように使われている。

- (8) 初心者なもので、自分で調べろなど冷やかしは結構ですのでまじめに答えていただける方、お願いします。(サンプル ID 0C14_01266 Yahoo!知恵袋)

(8)は質問に対する回答の中に、自分で調べろなどの冷やかしの多いので、「まじめに」答えてくれる人からの回答を求めている。みんなが質問に対して誠実に答えているのであれば、「まじめに答えていただけの方」と呼びかける必要はない。冷やかす人が多いからこそ、「まじめに答えていただけの方」を求めているのである。よって、(8)で「まじめにV」という表現を使っているのは、良いと考えられている価値基準に沿ってふるまう人が少ない状況で、良いと考えられている価値基準に沿ってふるまおうとする人のことを強調するためである。

また、次の(9)のような使い方も見られる。

- (9) 「わかっている。夏木警部補が、悪いことをしていないことぐらいはわれわれも知っているさ。でも、世の中には根も葉もない中傷を流して、まじめに働いている警察官を陥れようとする人間もいるんだ。そういった連中から守るのもわれわれの仕事なんだ」

(サンプル ID LBr9_00059 鷹見一幸『ネオクローン A』)

(9)は警察官について「まじめに働いている」と述べているが、我々は警察官が「まじめに働いている」ことは知っている。では、なぜここでは「まじめに働いている警察官」と表現しているのであろうか。それは、警察官を陥れようとする人間のことを批判するために、あえて警察官が「まじめに働いている」ことを強調しているからである。

上の(8)と(9)のように、「まじめにV」という表現が使われるのは、ある人の行為を「まじめ」であると言うことで、まじめではない行為との違いを強調する場合である。また、「まじめにV」のVには「答える」や「働く」の他に、「考える」や「回答する」が多く用いられている。

ここで、4節で問題となった(4)を再掲する。

- (10) あー、この先生は、優しいです、〈んー〉そして、えーいつも私の、あー私の宿題を、真面目に、直して、くれました 〈んー〉、(後略) (= (4))

先生が宿題の間違いを直してくれたことを「まじめに直してくれた」と表現するのは不自然であると述べた。その理由は、良いと考えられている価値基準に沿って先生が宿題を直すというのは当然のことだからである。それにも関わらず、(10)のように表現すると、先生は普段はまじめに宿題を直してくれないが、その時は「まじめに直してくれた」ということを強調していると解釈されるので注意が必要である。

続いて、二番目に多い「まじめなN」という表現について見る。次の例のように、ある人について述べるときに「まじめ」が使われている。

- (11) 砂沢はまじめな性格で、怠惰な人間や、軽薄な人間を嫌った。化粧の濃い女性も、軽薄と思っ
ているのか、砂沢は毛嫌いした。(サンプル ID LBg9_00168 三浦綾子『三浦綾子全集』)

- (12) いろいろなことに次から次へと興味に移るあなたがニガテなのは、まじめな人。もうすこしハ
ジケたほうが楽しいのに、なんて思っちゃう。

(サンプル ID PB31_00127 実著者不明『めざせ人気者！超おもしろ占い』)

まず(11)を見ると、怠惰な人間や、軽薄な人間を嫌う性格を「まじめな性格」と表現しているが、(11)では「まじめ」が誉め言葉として使われているとは言えない。続いて(12)では、「あなたがニガテなのは、まじめな人」とあるように、おもしろみのない人のことを批判するのに「まじめ」が使われている。このように、「まじめ」はいつも誉め言葉として使われるのではなく、ある人に対する批判として用いられることがある。

5. 2 『BCCWJ』における「熱心」について

続いて、「熱心」が『BCCWJ』においてどのような表現で用いられているのかを見る。その上位3つの表現を示したものが次の表7である。

表7 『BCCWJ』で使用されている「熱心」の表現

	使用されている表現	データの個数
1	熱心にV	1,039
2	熱心なN	542
3	熱心で～	207

以下では、「熱心にV」「熱心なN」という上位2つの表現の例を取りあげる。

最も多く使われているのは「熱心にV」という表現であり、次のような例が見られる。

- (13) 自主性が高まり、学校が活性化する良い影響や効果が得られていると感じています。例えば、体育祭では、夏休みから準備を開始するなど、それまでの年に比べて非常に熱心に取り組む姿が見られました。初めは教師の方から働き掛けをしましたが、生徒がどんどん自主的に進めてくれるようになり、教師を後押しすることがありました。

(サンプル ID OP65_00004 広報くさつ)

- (14) ほかの人が熱心に耳をかたむけてくれるのは、その人がなにか聞きたい気持ちを持っているからだと思う。(サンプル ID LBl_n_00015 鶴田洋子『話してみようよもっと!』)

まず(13)を見ると、生徒たちが自主的に体育祭の準備を進めていることを、「熱心に取り組む」と表現している。2節で「熱心」の基本義は〈情熱をもって積極的にある行為をするさま〉であると述べた。(13)の「熱心に取り組む」というのも、情熱があるからこそ自主的に体育祭の準備に取り組んでいるのであると考えられる。続いて(14)は、ある人が話に「熱心に耳をかたむける」のは、聞きたい気持ちがあるからだとして述べている。このように、情熱をもって積極的にある行為をするのには何らかの理由がある。(13)においても、体育祭を成功させたいという思いがあるからこそ、熱心に準備に取り組んでいるのだと考えられる。

ここで、4節で問題となった(7)を再掲する。

- (15) あー、妻、あー妻である、あーマリが、い、熱心にー、サンドイッチ作ったんですけども、(後略) (= (7))

(15)は、マリという女性がサンドイッチを作る様子について「熱心に作った」と表現しているが、この表現は不自然であると述べた。その理由は、情熱をもって積極的にサンドイッチ作りをする理由がこの文脈からは理解できないからである。このように、熱心にある行為を行うのには理由があり、その理由が文脈から理解できない場合は不自然な表現となる。

続いて、二番目に多い「熱心なN」という表現について見る。「熱心なN」のNには、次の(16)のような「人」や「信者」「ファン」などが多く使われている。

(16) その道の初心者やまだゴルフにそれほど興味・関心があるわけではない人が、たまたま道具を揃えてみたら、弾みで毎週コースに通うようになったという類だ。もとより、最初からゴルフに熱心な人は、そんな道具立てがなくともゴルフ道に精進する。

(サンプル ID LBr5_00058 弘兼憲史『ヒロカネ食堂』)

(16)の「熱心な人」も、ゴルフをしたいという気持ちがあり、そのために情熱をもって積極的にゴルフをする人のことを表している。

6. おわりに

本研究は、「まじめ」と「熱心」という語について、『I-JAS』を用い、日本語学習者が両語をどのように用いているのか、またどのような誤用があるのかを調査した。その結果、他者の行為の様子を表すのに両語が用いられるとき、誤用が見られた。まず、「まじめ」については、他者の行為の様子を「まじめ」と表現するのは、まじめに行わない人との違いを強調する場合である。そのため、そのような違いを強調する必要がないときに、ある人の行為を「まじめ」と言うと不自然な表現になる。一方の「熱心」については、先行研究をもとに〈情熱をもって積極的にある行為をするさま〉という意味であると記述した。また、情熱をもって積極的にある行為をするのには理由があり、その理由が文脈から理解できない場合、他者がある行為をする様子について「熱心」と言うと不自然な表現になることを述べた。

今後は、「まじめ」と「熱心」の類義語である「一生懸命／一所懸命」や「真剣」などを分析し、それらの違いを明らかにしたいと考えている。

参考文献

- 国広哲弥 (1982) 『意味論の方法』大修館書店
- コーパス検索アプリケーション『中納言』 <<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>> (2020年8月1日～11月30日)
- 柴田武・山田進・加藤安彦・靱山洋介編 (2008) 『講談社類語辞典』講談社
- スリーエーネットワーク編 (2013) 『みんなの日本語 初級II 第2版 本冊』スリーエーネットワーク
- 松村明編 (2019) 『大辞林 第四版』三省堂
- 山中信彦 (1997) 『「まじめ」の意味分析』『国語学』191, pp.110-98.
- 山中信彦・安田美幸 (2008) 『「まじめ」の原型意味論—大学生質問紙調査に見られる規範意識—』『日本語科学』24, pp.31-53.